

対シエラレオネ共和国 事業展開計画

2017年4月現在

基本方針 (大目標)	開発の進展に向けた経済的・人的基盤の形成
---------------	----------------------

重点分野1 (中目標)	インフラ整備
----------------	--------

開発課題1-1 (小目標) インフラ整備	【現状と課題】 経済成長及び公共サービスの提供に不可欠なインフラについては、内戦による被害等によっていまだ脆弱である。第3次貧困削減戦略(Agenda for Prosperity)では、国際競争力強化の柱の中にインフラ整備が位置づけられており、とりわけ電力分野の優先度は高い。人口集中が進み経済活動が盛んな首都地域では、高まる電力需要に供給(発電・送配電)が追いつかず、停電の頻発が大きな問題となっている。							【開発課題への対応方針】 従来の我が国の支援実績、アセット及び我が国の技術力を活かして、シエラレオネ政府が優先課題としている電力・道路などの基礎インフラの整備、関連政府機関の能力強化を重視した支援を行う。				
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
	電力インフラ整備 支援プログラム	経済成長の土台として不可欠な、電力インフラ整備とそのための政策・計画立案能力及び施設・設備の維持管理能力の強化を支援する。	電力供給設備維持管理のための能力向上プロジェクト	技プロ	2016 年度以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	7.54	
			高度ディーゼルエンジン・メンテナンス技術プロジェクト	技プロ			-----				4.00	
			配電網緊急改修計画	無償							15.52	
			第二次配電網緊急改修計画	無償							1.40	
			電力分野の課題別研修	課題別研修								
その他		水分野の課題別研修	課題別研修									

重点分野2 (中目標)	人的基盤の強化												
開発課題2-1 (小目標) 農業	【現状と課題】 コメはシエラレオネの主食であるが、国内生産量は内戦中(2001年)に過去最低の20万トン台まで減少した。その後増産に転じたが、2014年～2015年、エボラ出血熱流行の影響により、再度生産量が低迷し、生産量増加の必要性は依然として高い。コメは同国農業開発計画において重点農産物として位置づけられており、付加価値化を通じた自給率改善、小規模農家の収入向上等を目指している。					【開発課題への対応方針】 エボラ出血熱の流行の影響によりコメの生産量は著しく低下しており、シエラレオネの経済・社会基盤に大きな打撃を与えている。稲作に関する我が国の知見と技術力を活かし、小規模農民の生産性・収益性の向上のための適正稲作技術の確立と普及を中心に支援する。							
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考	
	農業・農村開発 プログラム	コメの生産拡大を念頭に置き、全国的に適用可能な稲作技術及び普及手法の確立を目指す。	持続的コメ生産プロジェクト	技プロ		—						7.38	
			農業分野の課題別研修	課題別研修									
			稲作等を通じたアフリカ食料安全保障復興支援・技術実証普及事業	マルチ									農林水産省拠出金 (国連世界食糧計画 (WFP)、アフリカ稲セ ンター(Africa Rice))
農業分野の草の根無償			草の根無償								0.06		
包括的生産サイクル支援による西アフリカ食料安全保障・栄養改善推進事業						-----						農林水産省拠出金 (国連世界食糧計画 (WFP))	

協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
				2016 年度以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度		
保健行政強化 プログラム	無料医療サービス導入により医療サービスへのアクセスには一定の改善が見られた一方、サービスの質の確保は未だに大きな課題である。我が国は、母子保健や感染症に関する医療サービス向上に貢献する。	サポーターズスーパービジョンシステム強化プロジェクト	技プロ							7.09	
		小児看護技術強化	個別専門家								
		小児看護技術強化	国別研修								
		保健分野の課題別研修等	課題別研修他								
開発課題2-2 (小目標) 保健	その他	西アフリカ諸国におけるエボラ出血熱流行に対応するための緊急無償資金協力	無償							4.55	
		保健システム強化及びコミュニティ主導の開発	マルチ							1.0百万USD	国連開発計画 (UNDP)
		生計の向上及び食料安全保障を通じたコミュニティのレジリエンス強化	マルチ							0.5百万USD	国際赤十字新月社連 盟(IFRC)
		シエラレオネにおける産科救急ケアの整備	マルチ							1.87百万USD	国連人口基金 (UNFPA)
		食糧安全保障及び災害運営能力の強化	マルチ							1.47百万USD	世界食糧計画 (WFP)
		ディアスポラ参加によるシエラレオン国家保健医療サービス強化	マルチ							0.86百万USD	国際移住機関 (IOM)
		ポストエボラ期における感染症予防のための強靱な地域保健体制の構築	マルチ							0.74百万USD	国連開発計画 (UNDP)
		保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力無償	草の根無償							0.07億円	

【現状と課題】
UNDP人間開発指標(HDI)によると、シエラレオネは187か国中181位(2015年)と最も開発が遅れた国の一つに位置づけられている。平均寿命、5歳未満児死亡率、妊産婦死亡率等の指標は改善が見られるものの、依然世界的に極めて低い水準にある。2014年～2015年、エボラ出血熱流行により、221人の医療従事者が犠牲になった他、多くの医療従事者が国外流出し、元来脆弱な医療システムを一時的に機能不全にさせたほか、人材不足が更に深刻化した。シエラレオネ政府は医療サービスへのアクセスと質の改善を目指して、2010年4月から、妊婦、授乳期の母親、5歳未満児を対象とした無料医療サービス・イニシアティブを実施している。

【開発課題への対応方針】
我が国は、中央レベルでの個別専門家の派遣(2011年)や県レベルでの技術協力プロジェクト「地域保健改善(2008年～2011年)」等を通してシエラレオネの保健行政の強化に貢献してきた。また、特に母子保健分野における医療従事者の能力強化を目指して本邦研修を行ってきた。今後は、これまでの支援実績や比較優位を活かし、エボラ流行後の支援として、保健行政の制度強化、医療従事者の能力向上、医療施設の強化等中長期的な支援に取り組む。

開発課題2-3 (小目標) 教育	【現状と課題】 シエラレオネでは、国家発展の推進に必要な人材が著しく不足している。公教育の強化には更なる努力が必要だが、初等教育へのアクセスは改善されつつある。他方、教育の質、特に理数科教育の質の改善の余地は極めて大きい。公務員の人員不足・能力不足によって、行政サービスの提供が限定的であることも大きな課題である。2004年には地方自治法が制定され、地域のニーズに基づいた開発計画の策定・公共施設の整備・各種行政サービス提供体制の枠組みが示されたが、中央・地方政府にはそれを実施に移すキャパシティが著しく不足している。			【開発課題への対応方針】 社会基盤となる人材の育成のために、我が国が比較優位を有する理数科教育を中心として、学校教育の質の改善に取り組む。また、学校・教室の収容能力が限られている都市部の学校において、校舎の新設を支援する。							支援額 (億円)	備考
	協プログラム名	協プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							
					2016 年度以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度		
	理数科教育改善プログラム	我が国が比較優位を有する理数科教育を中心とした教員研修の強化等を通じ、学校教育の質の改善に取り組む。	教育分野の課題別研修	課題別研修								
その他		教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力無償	草の根無償								0.18	

その他															
	協プログラム名	協プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考			
					2016 年度以前	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度					
	行政能力向上プログラム	中央政府及び地方政府行政官の能力強化を通じ、行政サービスの向上に取り組む。	カンビア県地域開発能力向上プロジェクト	技プロ										12.66	
			行政分野の課題別研修等	課題別研修他											
その他			シエラレオネにおける防災、災害応急能力及びコミュニティレジリエンスの強化	マルチ									IOM		
			シエラレオネ、リベリア及びガーナにおける海上犯罪との闘いにおける海事法執行支援	マルチ								0.63百万USD	国連薬物・犯罪事務所(UNODC)ガーナ、リベリア、シエラレオネが対象		
			人権分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力無償	草の根無償								0.10			
【凡例】「協準」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=詳細設計)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」(=個別機材)、「個別研修」(=課題別研修他)、「JOCV」(=青年海外協力隊)、「SV」(=シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」(=第三国研修)、「現地国内研修」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(=開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(=無償資金協力)、「有償」(=円借款、海外投融資)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多機関協力スキーム)、「中小企業支援」(=中小企業海外展開支援事業「ニーズ調査」)、「案件化調査」及び「普及・実証事業」並びに中小企業連携促進基礎調査)、「実績」(=実施期間)、「破線」(=実施予定期間)															